

岩手山の火山活動解説資料（平成 20 年 12 月）

仙台管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

活動概況

・地震や微動の発生状況（図 2～3）

火山性地震は 9 日にやや増加したほかは、低調に推移しました。火山性微動は観測されませんでした。

・噴気など表面現象の状況（図 4～10）

柏台（黒倉山山頂の北約 8 km）に設置してある遠望カメラでは、黒倉山山頂の噴気の高さは 80m 以下で、噴気活動は低調な状態が続いています（図 4）。

4 日に陸上自衛隊東北方面総監部の協力を得て実施した上空から観測では、岩手山山頂、御苗代湖、西小沢、大地獄谷、黒倉山などの噴気や地表面の温度分布¹⁾の状況に特段の変化は認められませんでした（図 5～10）。

- 1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

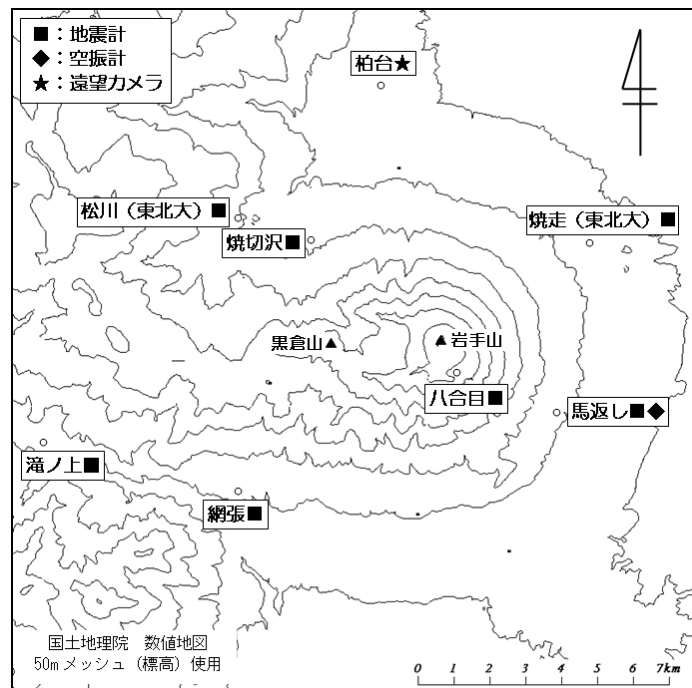


図 1 岩手山 観測点配置図

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.sendai-jma.go.jp/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 21 年 1 月分）は平成 21 年 2 月 6 日に発表する予定です。

資料は気象庁のデータその他、東北大学のデータを利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 17 総使、第 503 号）。

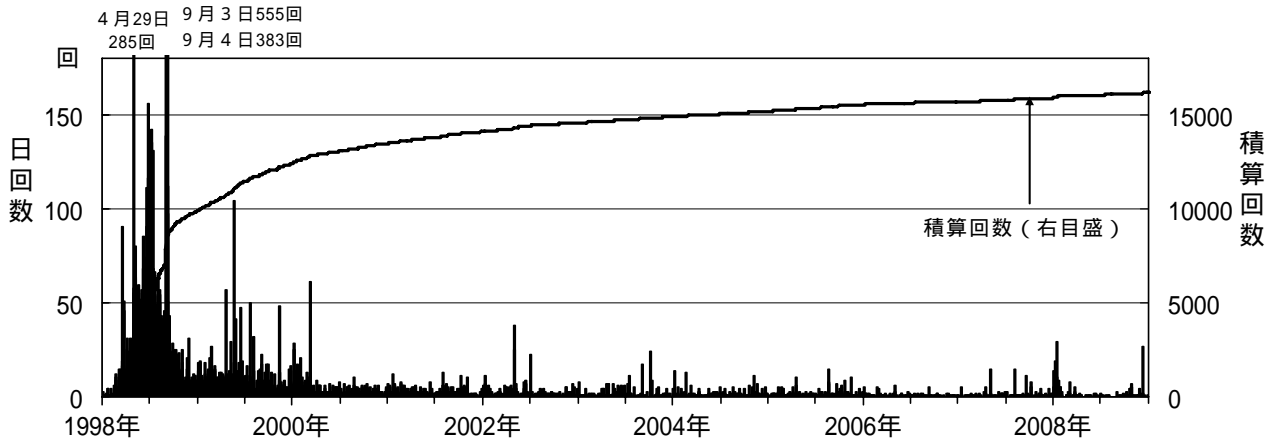


図2 岩手山 日別地震回数(1998年1月~2008年12月)

注) 2006年1月1日より、地震回数の基準点を東北大学松川観測点(計数基準:振幅1.0 μ m/s以上でS-P時間2秒以内)から焼切沢観測点(計数基準:振幅0.5 μ m/s以上でS-P時間2秒以内)に変更しました。2000年1月以降は滝ノ上付近の地震など山体以外の構造性地震を除外した回数です。(1998年から1999年までは滝ノ上付近の地震など山体以外の構造性地震も含む)

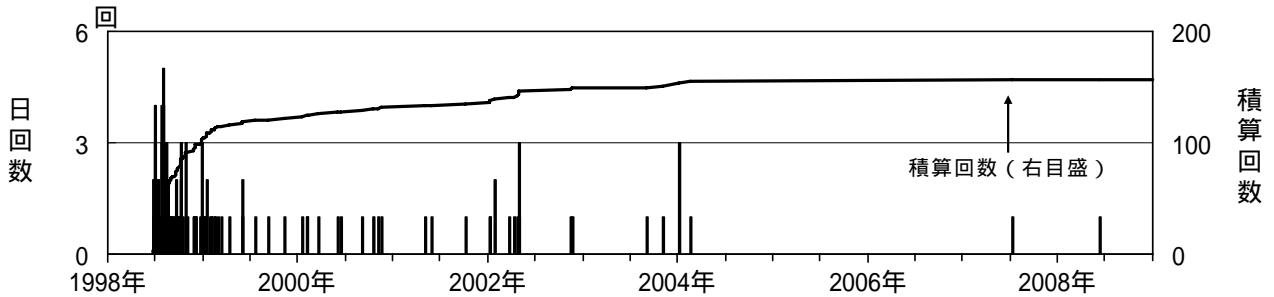


図3 岩手山 日別微動回数(1998年1月~2008年12月)

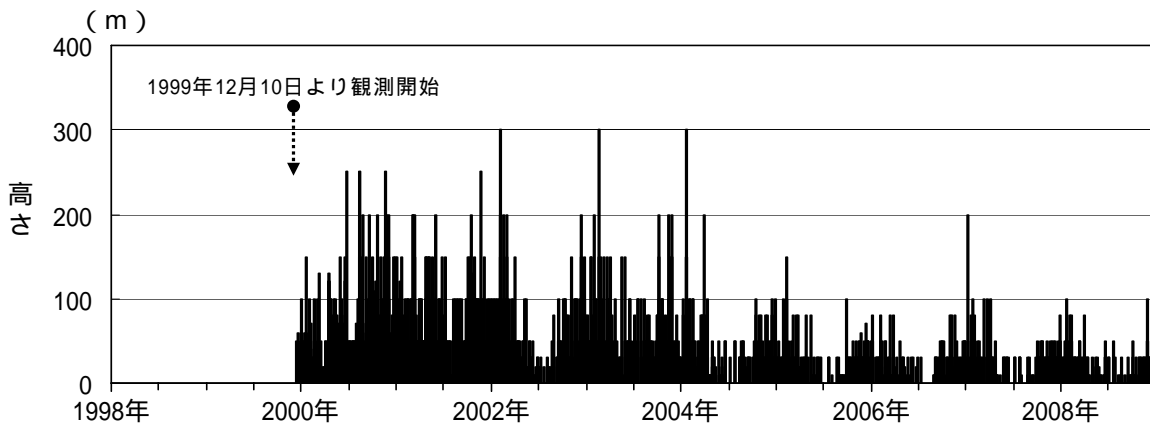


図4 岩手山 日最大噴気の高さ(黒倉山)(1999年12月10日~2008年12月)

柏台遠望カメラで、1999年12月10日より観測を開始しています。

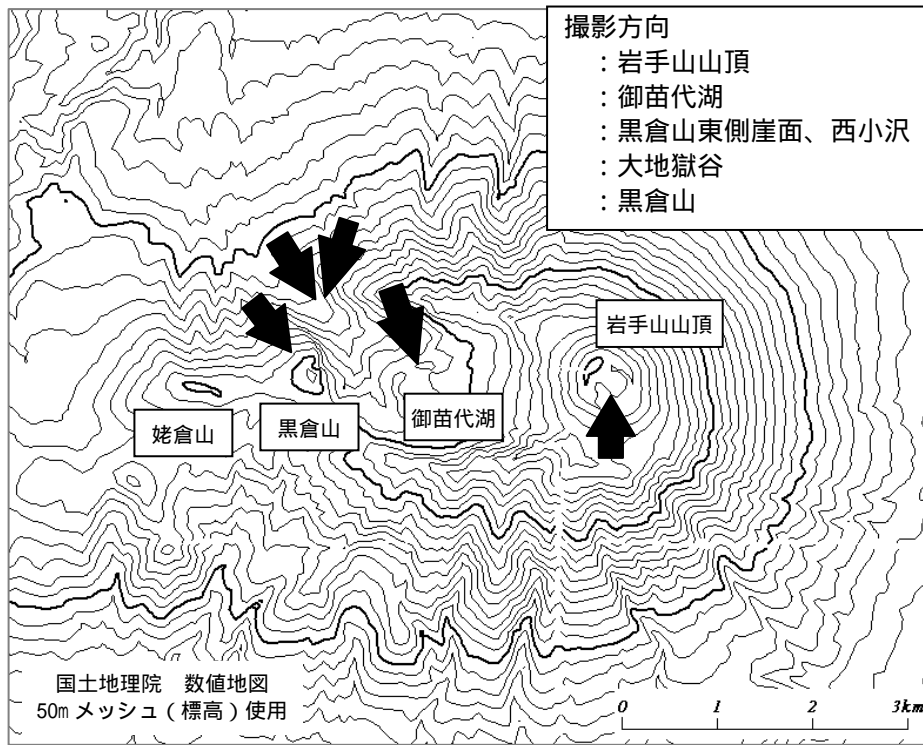
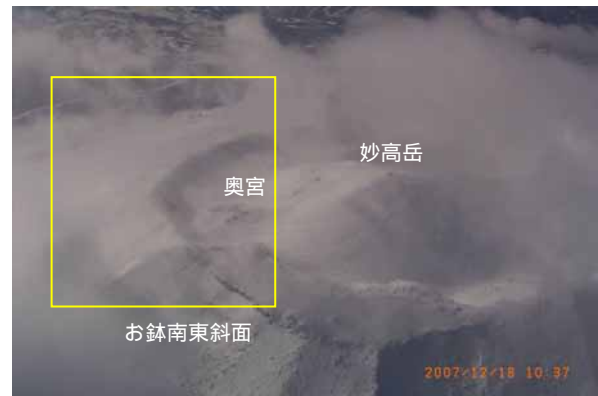


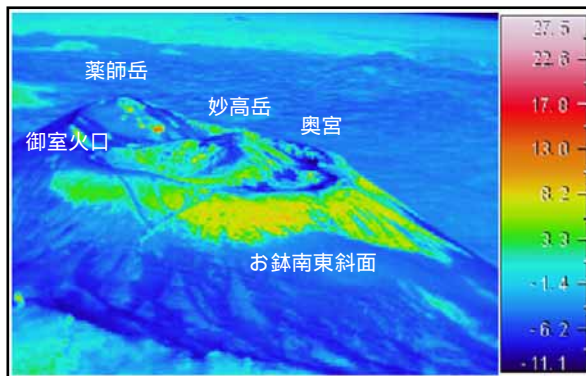
図5 岩手山 撮影方向



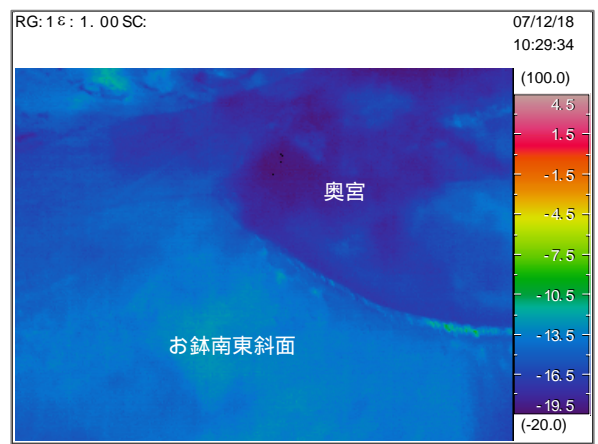
可視画像



可視画像



赤外画像



赤外画像

今回の調査(2008年12月4日、撮影方向)

前回の調査(2007年12月18日)

可視画像(上段)中の黄色い四角枠が赤外画像(下段)の範囲

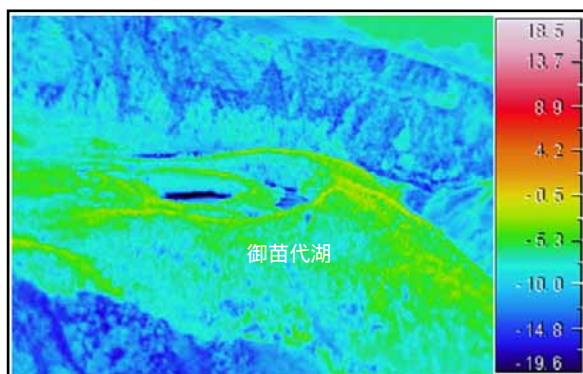
図6 岩手山 山頂



可視画像

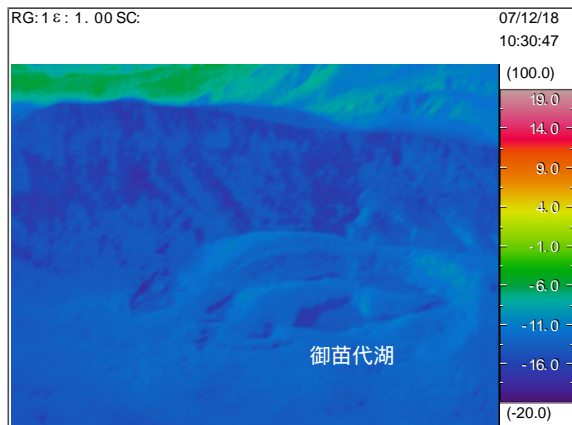


可視画像



赤外画像

今回の調査(2008年12月4日、撮影方向)



赤外画像

前回の調査(2007年12月18日)

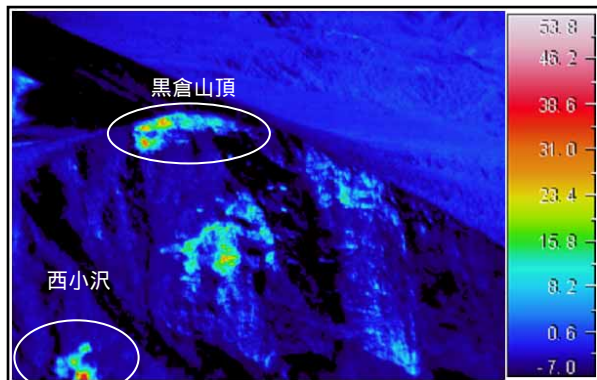
図7 岩手山 御苗代湖



可視画像

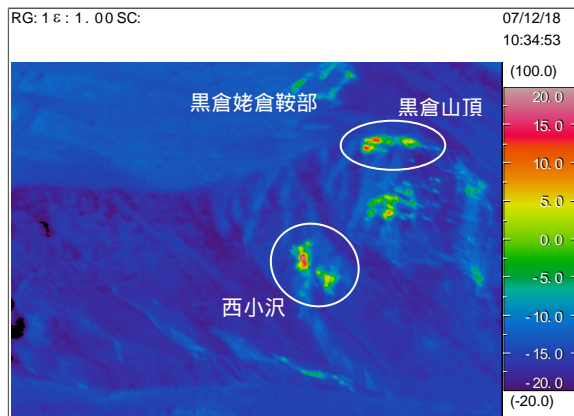


可視画像



赤外画像

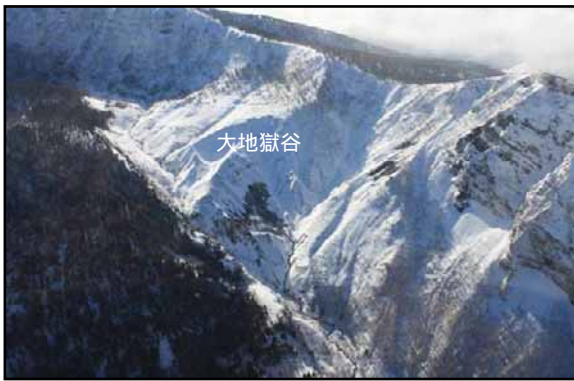
今回の調査(2008年12月4日、撮影方向)



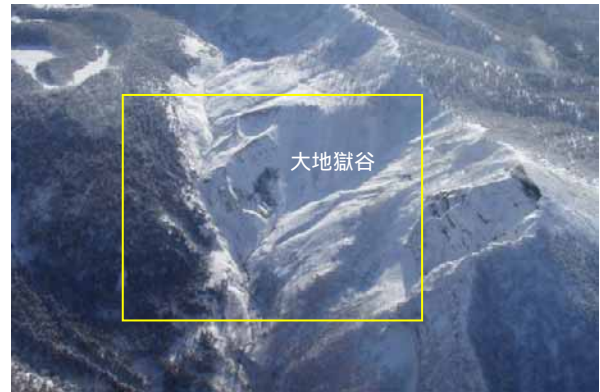
赤外画像

前回の調査(2007年12月18日)

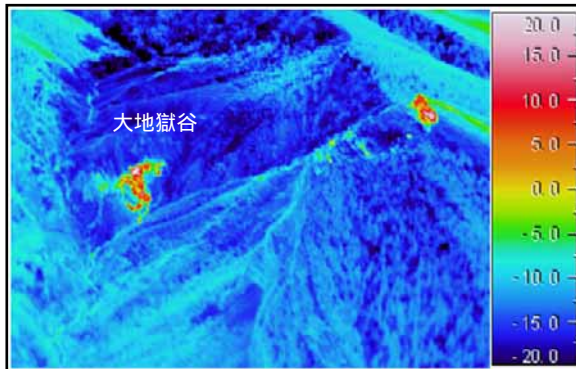
図8 岩手山 黒倉山東側崖面、西小沢



可視画像

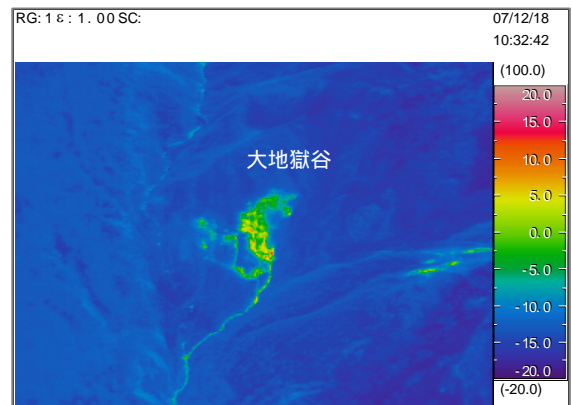


可視画像



赤外画像

今回の調査（2008年12月4日、撮影方向）

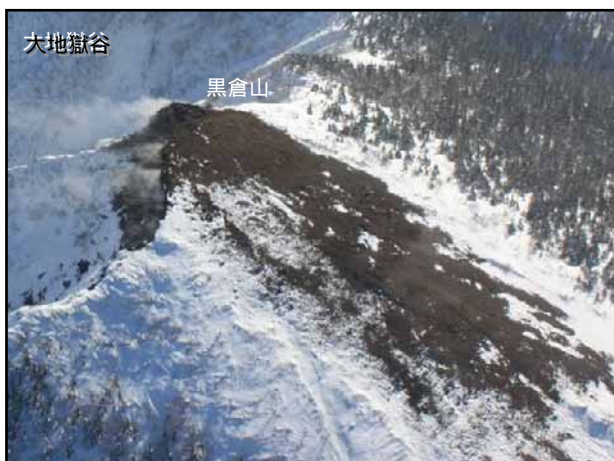


赤外画像

前回の調査（2007年12月18日）

可視画像（上段）中の黄色い四角枠が赤外画像（下段）の範囲

図9 岩手山 大地獄谷



今回の調査（2008年12月4日、撮影方向）



前回の調査（2007年12月18日）

図10 岩手山 黒倉山